

漁業の 担い手育成 *Project*

地域が行う
担い手育成の取組や
就業支援の
内容について
ご紹介!

地域で育てる、
あらたな担い手。

「漁師になりたい方」を全面的にバックアップ!

STEP 1 まずは情報収集・相談 漁業就業支援フェアに参加

漁師になりたい方と担い手を求める漁業者が集まる相談会です。各地域の漁業の特徴やまちのことなどを直接聞けるので、生きた情報を収集できます。北海道漁業就業支援協議会や北海道庁による「なんでも相談コーナー」も設置されています。



漁業者から
直接話を聞いて
納得!

STEP 2 次のステップに進む前に 漁業就業体験に参加

実際に漁業や漁村地域での暮らしを体験することができます。「漁師になりたい、でも自分にできるか不安」という方などは是非!

STEP 3 漁師になる!と決めたら 長期現場研修スタート

一人前の漁師を目指し、各地域の漁業者（親方）のもとで技術指導を受けます。将来、乗組員としての漁師を目指す「雇用型」は最長1年間、自営の漁師を目指す「独立型」は最長3年間の研修となります。

◎フェア・就業体験・現場研修に関するくわしい情報やお問い合わせはこちらへ

北海道漁業就業支援協議会

札幌市中央区北3条西7丁目 北海道水産ビル

TEL (011) 280-3007 Mail fish01@h-suisankai.or.jp

HPでは最新の情報や
漁業体験のご案内
Q&Aなどが
見られます!



漁業に必要な知識や技術の習得、資格取得のための
講習を行っています

《6ヵ月間の総合コース》

実践的かつ即戦力となる漁業実習を中心のカリキュラム。漁業に必要な知識や技術の研修、また、船舶の操縦や潜水士などのさまざまな資格を取得し、漁業の振興と地域の活性化を担う漁業就業者の育成を目的とした研修です。

研修を受講される方へ
125,000円/月が交付される
国の支援制度もあります!
詳細は北海道立漁業研修所へ
お問い合わせください

北海道立漁業研修所

茅部郡鹿部町字本別540番地198

TEL (01372) 7-5111



《5日間の基礎コース》

乗船実習による網起こしやロープワーク、陸上での網修理など、漁業に関する初步的な技術や知識の習得を目的とした研修です。

《発行・お問い合わせ》北海道水産林務部 水産局 水産経営課 担い手育成係
北海道札幌市中央区北3条西6丁目 TEL (011) 204-5460

《編集・制作・印刷》HAI株北海道アルバイト情報社 くらしごと編集部
北海道札幌市中央区南1条西6丁目20-1 ショピキタビル TEL (011) 223-4896

北海道の漁業をみらいへつなぐ。

全国一の漁業生産を誇り、日本の食を支える北海道の漁業。

豊富な魚種と品質の高さから、道産水産物は海外からも高い評価を得ています。

凍つつく寒さ、荒波に耐え、北海道の漁業を守り続けてきた漁業者。

漁業は、決して楽しいことばかりではない、大変厳しいものです。

その一方で、広大な漁場で船を操り、沖で釣り上げた魚を

美味しいと言つて食べてもらえる、

そんな無上の喜びとやりがいを感じられるのも漁業です。

しかし、少子高齢化などを背景に、北海道の漁業者数は現在約2万4千人、
10年前に比べて約9千人、3割近くも減少しています。

こうした厳しい状況の中で、それぞれの立場を超えて協力し合い、

地域の新たな担い手を育てていこうこと必至に取り組んでいる方たちがいます。

ここでは、こうした地域の取組や就業支援の内容についてご紹介します。

北海道の漁業をみらいへつなぐため、

全道の各地域に取組が広がり、これまで培ってきた技術を受け継ぎ、

新たな担い手として活躍していくほしい、そんな想いを伝える一冊です。

初山別村

30名ほどの漁協組合員の多くが、50代以上のタコ箱漁師である初山別村。「近い将来、村から漁師がいなくなる」という危機感を持ちながらも、漁師個人で研修生を受け入れるには、費用面などの負担が大きく、また、技術的に未熟な新米漁師が、就業後、すぐに安定した収入を得るのは難しいという理由から、具体的な取組にはいたっていませんでした。しかし、こうした課題を解決すべく親方漁師たちが協力し複数漁業の技術指導を行い、これら漁業の組み合わせによる新規就業者の定着モデルを令和2年度から進めています。

利尻島

高級コンブ「利尻コンブ」の名産地として、その名を全国にとどろかせている利尻島。しかし、例に漏れず他市町村と同様、年々進む漁師の高齢化と急速な減少に喘いでいます。平成4年に約1,300名だった漁協組合員が、平成22年には約700名と、ほぼ半減。このままでは地域の産業が立ちゆかなくなるという危機感から、島外から漁師希望者を積極的に受け入れるため、利尻町と利尻富士町、そして利尻漁協を中心となり、2008年から島全体で担い手育成の取組を進めてきました。その結果、12年の間に34名が研修を終了し、利尻島で漁師として活躍しています。





利尻の 担い手育成 プログラム

**漁業就業
支援フェアで
担い手と親方が
マッチング**

都心部で行われる「漁業就業支援フェア」の出展ブースで、研修内容やまちなどの説明をしながら、指導役となる親方と漁師を目指す研修生のマッチングを行います。



2週間の お試し漁業体験 「漁師道」

「漁師に興味がある」とはいえ、いきなり3年間の研修を受けるのはハードルが高いだろうということで、その前に2週間のお試し漁業体験を行っています。親方との生活を通じて、仕事内容や漁業の楽しさ、やりがい、利尻島での生活を肌で感じてもらいます。



元研修生
梅原さん



中辻親方
僕のところで、また新たな研修生を受け入れる予定です。利尻島では、島外から来た元研修生がたくさん活躍しています。これからもたくさんの人々に、ここで漁師を目指して欲しいですね!

※「漁業権」とは漁業法に基づく漁業を営む権利を指し、「組合管理漁業権」と「自営漁業権」があります。本冊子各所に記述の「漁業権の取得」は前者に関するもので、正確には漁業権を取得・管理する漁協から承認を受けること(漁業ごとに各自が権利行使し営むこと)を意味します。

利尻の研修体制 5つのPoint

Point1 研修生のモチベーション

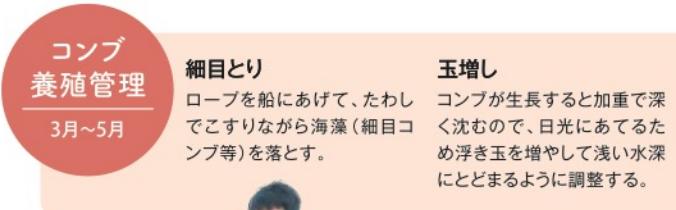
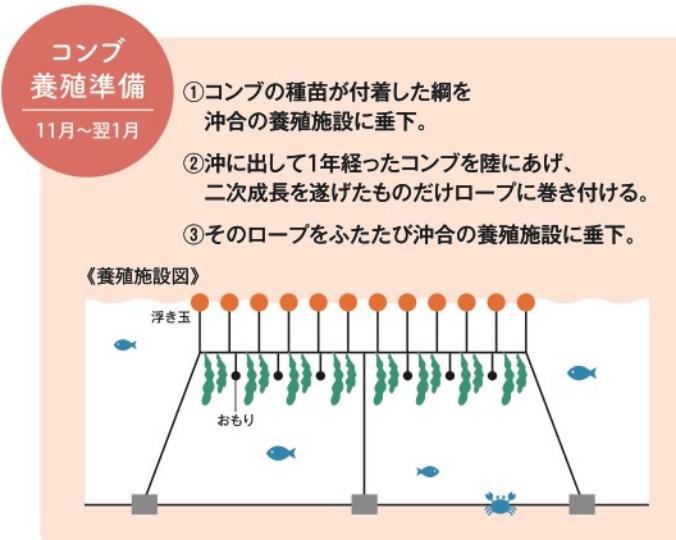
**研修生も
漁業権を取得できる環境**

研修期間中の月額支給(15万円程)に加え、漁業権取得後は磯周囲漁でさらに収入を得ることができます。研修中でも、頑張れば頑張るほど収入に繋がる体制が、研修生のやる気を繋がっています。

Point2 実践施設で研修

**研修用の養殖施設を
沖合に整備**

研修生は実際の操業規模で研修を行うことでより、技術とともに経営感覚が養われ、また、親方の経済的な負担も軽減されます。



最長3年間の 漁業研修START!

漁師道を終え、「漁師になる!」と決意をしたら、国の長期研修事業に進みます。この研修で、本格的に漁業のノウハウを学び、一人前の漁師を目指します。



Point3 研修生どうしの交流

**グループによる
研修体制**

一つの研修施設で4グループ・各1名が研修を行います。研修生どうしの交流が生まれ、課題を共有することで、日常の生活や就業への不安が緩和されます。

Point4 島全体の応援

**地域ぐるみで
研修生を見守る**

研修生たちに定着してもらうには、地域ぐるみで研修生を見守ることがとても重要です。周りの先輩漁師やまち全体で研修生を応援します。

Point5 持続可能なシステム

**研修生はやがて
次の親方へ**

研修後は、指導を受けた親方たちと共同で作業を行って技術の向上と経営の安定を図り、また、新たな研修生の指導にも取り組みます。これにより、継続的な研修生の受け入れ体制が整いました。

流れは覚えられたと言つても、そこからまた覚えなきやいけないことがたくさんある。時間が経てば経つほど島に友達や知り合いが増え、地元の漁師さんたちから漁に使う道具など色々なものを使ってもらったりして、そういう意味で3年という期間は技術を学ぶだけじゃなくて、この先漁師としてやっていく上で、島の人との「繋がり」を作る大事な期間なのかもしれないですね。といっても何か特別なことをしなければいけないわけではなくて、利尻島では磯周り(磯漁)をして、「どこから来たんだ?」って島の人みんな声をかけてくれたりするので自然と繋がりができていきました。

梅原・想像はしてたけど「人ってこんなに働けるんだ」とつて思つたほど漁師の仕事は大変。正直、毎年夏の繁忙期にはくしけになつたんですけど、3年すぎたあたりから、繁忙期と閑散期のメリハリのある生活に慣れていきました。生活面では研修生でも毎月会社員みたいに決まつたお給料が貰えるのですごく安心。僕の時は月15万円だったんですけど、島での生活費が多いのでそれでも充分。親方からちゃんと技術を教えてもらつて自分が頑張りさえすれば、研修期間を終えた時にはまだつたなくとも一人で商売(漁業)を始められる状態になれます。ひとつ課題があるとしたら、制度自体はいいとしても、つく親方との相性によってその後が左右されるという部分は正直あるかもしれません。研修生の中には、キツイ状況になつてもまわりに相談できなかつたり、うまく解決できなくて途中で辞めていつてしまう人もいますから。

—なるほど。研修制度も根底にあるのは人と人のコミュニケーションですから、親方と研修生の相性も大切なホ

ー親方は利尻島の研修内容についてどう思いますか?

中辻・島外から来た新人でも、漁業権が取得しやすい利尻島の研修システムはとても良いと思いますよ。特

印です。では、お二人にとつて中辻さんはどんな親方でしたか?

水貝・親方は、とにかくコンブのことばかり考えている人です(笑)。お金とかよりも、これだけの設備・倉庫を建てたらこれだけの本数のコンブが処理できるとか、どのくらいの人に就業機会を与えられる、とか。工夫したり、システムを考えるのが好きな人で、いつもそんなことを考えます。研修期間のときは、親方と一緒に遊んだりもしましたけど、子どもがでてきてからは、僕もつきあい悪くなっちゃつて最近はあまり行かなくなりましたね。でも今も親方は「今日の夜、○○と飯行くけど、行く?」って声かけてくれますよ。

梅原・中辻親方は、自分たち研修生にきちんと気を配ってくれて、決して無茶させることはしません。研修生の様子みて、疲労がたまってたり、頭がボートとしてそうだったりするのを感じ取つて、きちんと休ませてくれます。人を見る力があるんですね。

—では親方が研修で一番気をつけていることは?

中辻・一番はケガと事故をしないことです。研修生といえどもすぐに沖に出るので、海上や船上で危険な場所やリスクを伝えるのですが、この「危険」を言葉で伝えるのが難しいですね。実際に船から落ちてみるわけにもいかないです。新人のころは船が傾いても気づかなかつたりするので。でも大事なことなので、そういう感覚をわかりやすく伝えるようにしています。

にウニなどの磯まわり漁は自分の努力が収入に反映されるので、研修生もやる気が出るみたいです。最初は全然獲れなかつたのに、どんどん獲れる量が増えていく彼らの成長を目の当たりにして、親方としてとても嬉しいになります。そんな環境なので、利尻島には僕たちみたいに島外から来て研修制度を経て、漁師として定着している人が何人もいます。彼ら先輩漁師たちが後輩漁師たちに獲れそうな場所を教えたり、アドバイスしたりとサポートする環境が自然とできあがつているみたいですね。

—実際に研修をうけてみてどうでしたか?

水貝・最初、3年は長いなと思いました。でも振り返つてみると、1年では短いし、2年くらいでひととおりのとだつたら大丈夫だと2015年、利尻島へ行くことを決めました。

島外の就業希望者を積極的に受け入れ、高い定着率を誇る利尻島。

この取り組みの成果ともいえる

元研修生で、

現在は島の漁師として活躍する

3名にお話を聞きました。

やろうと思えば全部できる。 可能性は無限大。

元研修生 梅原純平さん(33)



最初は「いったろうかな」くらいの ノリで島にきました(笑)

元研修生 水貝和広さん(38)

新人をやる気にさせる 研修体制。

親方 中辻清貴さん(39)



—皆さん、まったくの異業種から漁師になられたそつで? 中辻清貴(以下、中辻)・僕はもともと神戸の水産加工会社の社員として、コンブの買い付けで利尻島にはよく来ていたんです。その時に地元の人から「ある漁師が後継者を探している」と聞かされたことをきっかけに漁師の道に進みました。2009年に島に来て、研修生を経て今は養殖コンブ漁師の傍ら、親方として漁師育成にも携わっています。

水貝和広(以下、水貝)・僕は大阪でプロボクサーをしながら貿易会社の会社員として働いていたんですが、ちょうどプロボクサーを辞めようとしていたときに、同級生でもある親方の中辻さんから「漁師にならないか」と声をかけてもらったので、「じゃ、いったろうかな」くらいのノリで2014年に島に来ました(笑)。とはいっても世話を聞く以上、ここで腰を据えてやると心に決めてきましたけどね。

梅原純平(以下、梅原)・僕は札幌でスーパーカレー屋の店長をしていたのですが、飲食業界では自分で経営できなければ先がないと感じていたころに、率直に「漁師は儲かりそうだな」と思つたのがきっかけです。コネは全くなかつたので、携帯で漁師のなり方を調べて、札幌の漁業就業支援フェアに参加そこで利尻島のブースにいた中辻さんに会つて話を聞いていると、何だかトントンと漁師になれそうな気がして(笑)。この人のもとだつたら大丈夫だと2015年、利尻島へ行くことを決めました。

梅原純平(以下、梅原)・僕は札幌でスーパーカレー屋の店長をしていたのですが、飲食業界では自分で経営できなければ先がないと感じていたころに、率直に「漁師は儲かりそうだな」と思つたのがきっかけです。コネは全くなかつたので、携帯で漁師のなり方を調べて、札幌の漁業就業支援フェアに参加そこで利尻島のブースにいた中辻さんに会つて話を聞いていると、何だかトントンと漁師になれそうな気がして(笑)。この人のもとだつたら大丈夫だと2015年、利尻島へ行くことを決めました。

—実際に研修をうけてみてどうでしたか?

水貝・最初、3年は長いなと思いました。でも振り返つてみると、1年では短いし、2年くらいでひととおりのとだつたら大丈夫だと2015年、利尻島へ行くことを決めました。

—では声かけてくれますよ。

梅原・中辻親方は、自分たち研修生にきちんと気を

配ってくれて、決して無茶させようなことはしませ

ん。研修生の様子みて、疲労がたまってたり、頭が

ボートとしてそうだったりするのを感じ取つて、きちんと休ませてくれます。人を見る力があるんですね。

—では親方が研修で一番気をつけていることは?

水貝・僕はそこまで漁が上手くないし、自分ひとりで

こうやりたいっていうわけでもないので、親方のところ

を手伝いながら空いた時間は磯周りするような今のス

タイルが自分にはあつていています。自分ひとりでやるには「勇気」も「借金する覚悟」も必要ですか

ら。もちろん完全に独立してひとりでやりたい人はや

れる環境ですよ。どういう働き方をするかは、その人次第。生活水準をどうしたいかで、みんな働き方を変えて

いると思います。選択肢がいろいろあつて、好きなよう

に生きられるっていうのがこの島の大きな魅力ですね。

梅原・漁師は自分の頑張り次第で稼げるの、やっぱ

り稼げる漁師になりたいと常に思っています。商売どし

てウニ漁だけじゃなくてタコやホッケを獲つてみたり、

やろうと思えば全部できるので。漁協からお金借りり、結構みんな色んな商売(漁業)してますからね。だから

ここでは可能性は無限大です!…でも、僕も今は満足

利尻地域漁業就業者 対策協議会 発足当時のハナシ

前 水産技術普及指導所 職員・
現 北海道水産会
(北海道漁業就業支援協議会)
宮本 指導専門員



平成20年の協議会発足当時、私は島の水産技術普及指導所(道職員)の普及員でした。当然、島で漁師さんと話をすることが多く、特に新人漁師さんとの会話は、技術指導というよりは悩み相談という要素も大きかったように思います。そんなこともあって、漁師さんと島外から来る人とのバイブル役も期待されたのか、協議会のメンバーに呼ばれて立ち上げに関わりました。当時、国や道の方針で各地に担い手育成のための協議会自体は立ち上がってましたが、地域独自の担い手育成制度をつくって活動できていたのは数ヶ所しかなかったように思います。最初は役場(利尻町・利尻富士町)・漁協・道(水産指導所・振興局水産課)のそれぞれの代表からなる協議会メンバーで集まつてはみたものの、何からしていいのかわからず…。そんな中でまず取り組んだのが、すでに知り合いのツテなどで島に来ていた、今で言う「研修生」の「困っていること」「辛いこと」「親方に言いつらうこと」などの聞き取りでした。それらの意見を反映させたり課題を洗い出したりして、研修生に来てもらい定着してもらうための新たな制度を作りあげていきました。そうして枠組みはできつありました。そこで大きな役割を占めたのが、浜で指導的な役割を担っている「漁業士(※)」さん達だったんです。前例のないことをするのは本当に大変だったと思いますが、彼らが率先して研修生の受け入れ事例を作ろうとしてくれたおかげで、やがて1人、2人と実績ができていきました。研修生が実際に育っていくと、立ち上げ当時の「外から連れてきてどうすんだよ」という視線も少しずつ変わっていき、受入を希望する親方も増えて、さらにフェアでは想像以上に希望者が集まるようになりました。この時は嬉しい反面「本当に来ちゃったよ…住むところどうしよう!」と慌てて町営住宅や教員住宅はじめ、ずっと空いている空き家も交渉しながら協議会で手分けして住める家を探し回ったものでした(笑)。利尻島では、親方だけでなく地域ぐるみで研修生を見守っているのが、育成成功の大きな理由のひとつだと思います。直接指導する親方以外にも、まわりの先輩漁師や、まちの人などが「応援しているよ」という空気感をつくってくれています。例えば、コンブ養殖漁業は資金も場所も人手も必要ですから、「俺は干すより獲りたい」とか「あいつのコンブを干すのはいやだ」ではなくて、これからは人のつながりを築いていながら、助け合って漁業に取り組むことで、安定した生産に結びついていくはずです。これまで、そしてこれからの研修生たちが、地域の人々と一緒に現状を少しずつ変えている様子が感じられますから、今後も島の未来を担う彼らには大いに期待しています。

※漁業士・青年漁業士と指導漁業士の2つの称号があり、地域漁業の中核となり得る青年漁業者や、指導的役割を果たしてきた漁業者として北海道知事の認定を受け、地域漁業の振興や人材育成等の役割を担う。2021年1月時点での内では計213名が活躍中。

「利尻に行きたい!漁師をしたい!」という方を増やすために、どんなことをしていますか?

宮田・基本的に北海道漁業就業支援協議会などが主催して札幌で行われる「漁業就業支援フェア(以下、フェア)」に研修生を受け入れる親方をつれて、参加者に親方から利尻の漁業や生活の事を直接説明して

て行く流れです。

「利尻に行きたい!漁師をしたい!」という方を増やすために、どんなことをしていますか?

長谷川・ただでさえキツいと思われている漁師の仕事だし、利尻は離島なので今までの生活と全く違う環境に置かれます。今の仕事を辞めて何年も研修してもらうにはリスクが高い。なので、お試しの意味も含めて2週間、漁師の仕事や島での生活を見てもらう「漁師道」という研修を経て、やれそうだと思った人には、1年~3年の本格的な研修を受けてもらい、漁師として育て

くるのは働き盛りの年代が多いので、自分たちの収入を上げるために色々工夫したり、地域の活性化にも繋がっています。昨年は減少幅がどうどう1人になりました。高柴祐輔係長(以下、高柴)・研修生として島にやつてくるのは働き盛りの年代が多いので、自分たちの収入を上げるために色々工夫したり、地域の活性化にも繋がっています。島に来てから結婚して子どもが生まれた人も。少なからず、島の問題だった少子高齢化にも貢献してくれています。

長谷川立参事兼総務部長(以下、長谷川)・平成20年に協議会が立ち上がって、島外から人を受け入れる取り組みを始めてこれまで42人が漁業を体験、そのうち28人が定着し(約70%の定着率)、利尻の漁師として活躍してくれています。どこの地域でも問題となっている漁師の高齢化や跡継ぎ不在による組合員の急速な減少を、ゆるやかにできたのはこの取り組みのおかげだと思っています。昨年は減少幅がどうどう1人になりました。

一利尻島では、平成20年に発足した、利尻地域漁業就業者対策協議会(以下、協議会)の取り組みが功を奏しました。

**若い人たちが増え
さらなる好循環も。**

せっかく来てもらうのだから、
少しでも組合員になりやすいように。
**若い人たちが増え
さらなる好循環も。**

利尻富士町役場
産業振興課水産港政係
高柴 祐輔さん

利尻町役場
まち産業推進課
課長
宮田 秀彦さん

利尻漁業協同組合
参事兼総務部長
長谷川立さん

島と研修生をつなぎ、
町として、漁協として、
それぞれの立場から
住環境も充実させて、
今後もたくさんの研修生を
受け入れて行きたい。

親方と研修生をサポートする
3名にお話を聞きました。

利尻島

**役場と漁協職員が語る
担い手育成の
これまでとこれから**

島外から研修生を受け入れて、約10年が経ちましたが
が成果としてどんな事例がありますか?

長谷川・例えば中辻さんは(5~6p 参照)研修を終えてからコンブ養殖漁師として独立し、全天候型のコンブの品質向上や安定供給に尽力してくれています。ほとんどのコンブ漁師は後継者がいないで、旧來のやり方で細々と続けていくしかなく、設備投資なんて考えも及ばなかつた。でも、将来を見据え、漁協から資金を調達したり、国や町の補助金などを利用して、工夫をこらした施設を自ら作り上げました。それによって雇用も生まれ、新たに研修生も受け入れて、利尻の漁業の発展に無くてはならない人材に育っています。また、この制度の最初の研修生である渡邊大樹さんは、今や青年部長として活躍し、後輩の指導にもあたっています。このような例はたくさんあり、人材が確かに育つていることを実感しています。

利尻島の担い手育成事業はとても順調のようですが、協議会開設当時は苦労もあったそうですね。

高柴・そもそも、利尻の漁師さんがどんどん高齢になり、跡継ぎがいなくて廃業する人が増えていました。「利尻の漁業を支えるために、島外から人を受け入れるしかない」というところから事業がスタートしているので、外から人を受け入れる為に何が必要か、どうしたら腰を据えて漁師になつてくれるのか、みんな手探りの状態でした。



コンブ漁の繁忙期には島外からたくさんのアルバイトスタッフがやってきます。

宮田：外から人を受け入れるということは、住むところ、働くところ、その人が島できちんと生活できる基盤も用意しなくてはいけません。研修中の給料は？漁師になるために舟はどうする？など、当時の協議会立ち上げメンバーから、色々な問題点や課題が持ち上がり、それを二つひとつ解決しながら進めて来たと聞いています。

一漁師さんの理解や協力がとても重要なようですが、皆さん最初から積極的でしたか？

長谷川：正直、最初から皆が賛成というわけではなかったようです。しかし、そのタイミングで当時4つあった漁協が一つになったことが大きかったようです。それをきっかけにして引退する漁師さんも一時期増えたのですが、同時に島全体として取り組むという雰囲気にもなっていきました。

一今では研修生を受け入れたいと手を上げる親方もどんどん増えているそうですね。なにかきっかけはありますか？

長谷川：受入体制の整備ももちろん大事だけど、それを広くアピールして、最初の入り口であるフェアにたくさんの人々に来てもらうという、研修生確保の前の段階での努力も大事ですね。実は今、研修希望者より、むしろ受け入れたい親方の方が多くて、そのバランスとどね（笑）

宮田：優しそうな漁師さんなんて、そういうないけれど、研修希望者は、優しそうな親方のブースに座ると思いますからね。

研修終了1年目の漁師でも頑張り次第で稼げる！

「5年も10年も経験を積まなくとも、2~3年もすれば、ウニやナマコはそこそこ獲れるようになります。今はナマコが高値なので、平成20年くらいの一番水揚げが少なかった時と比べても、かなり収入は上がっていると思います。平均すると磯漁だけで350万円くらい、多い人だと500万円とか600万円とか。それに養殖コンブ漁などの収入がプラスされますからね。そういう自分で稼ぐという実感を得やすいのも定着の理由だと思います。」（長谷川）

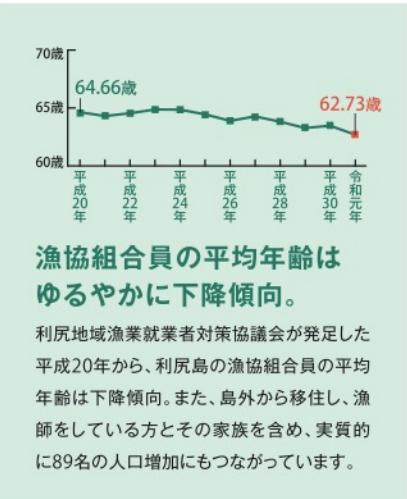
年収例	磯周り漁(ウニ・ナマコ) + 養殖コンブ漁	年収 350万円 + 300万円 = 650万円
-----	-----------------------	-----------------------------



日本百名山にも選ばれる利尻山を中心に豊かな自然が広がります。

一この取り組みについて今後改善したいところは？

宮田：3年の研修が終了したあとの研修生の独立に関して、組合や町がもっとサポートできる体制をつくっていきたいと思います。現状研修終了後はさらなる技術の習得という面からも、親方の仕事を手伝いながらの「自立」という漁師さんが多いので、本人が望めば3年後には完全に独立立ちしてもやつていけるようになります。そのためには、例えばコンブ養殖の施設をもっと充実させていくとか、共有できるような乾燥施設を整備するとか。でもそれにはまた大きな金額や人手が必要になるので、いろいろ知恵を絞らないとなかなか難しいですが。受け入れてくれた親方にに対する支援も謝礼金だけではなくて、もっと養殖施設を整備したり使いやすくしたりしながらサポートできれば、研修生の3年後の完全独立に有効な支援になるかもしれません。受け入れてくれた親方に少しすづ増やしているんですが、もっともっと充実させて、たくさんの研修生を受け入れていきたいですね！



宮田：やっぱり、研修生にある程度作業を任せられるようになってくると、体力的にも時間的にも随分自分の仕事が楽になりますし、受け入れた親方には指導料が支払われるという収入的なメリットもあります。そういう親方側のメリットが他の漁師さんにも伝わって、研修生を受け入れる親方希望者がすこしづつ広まっています。何よりも一生懸命働く研修生の姿を見て、気持ちが変わつていった人も多かったのではないか。

高柴：研修を終えた新人漁師さんが、親方と共に作業することができ、お互いに協力して安定した収入を得られているということも、今まで考えられなかつたことです。

一研修中の研修生の給与や親方に対しての指導料などほかに、バックアップしていることは？

宮田：最初は既存の養殖施設で研修を行っていたんですけど、研修と言えども海での実践が中心になるので、既存の養殖施設では手狭な状態になってしまったんです。そこで、北海道の補助金を活用して研修用のコンブ養殖施設を沖に2つ設置しました。現在はその2つの施設を研修生を抱える4つのグループでシェアして使用管理しています。これによって親方の費用的な負担がなくなります。これによって親方の費用的な負担がなくなります。親方から「大変だ！」とか「困った！」とか本当に聞かないんですね。漁協の青年部に入ったり、「元研修生が組合に相談しにくることもあります。もちろん出資金も必要ですが、他よりかなり安いですね。以前はもう少しハードルが高かったのですが、せっかく外から来てもらつて受け入れるのだし、本人が希望さえすればみんなが組合員になれる、つまり漁業も殆どないんですね。漁協の青年部に入ったり、「元研修生の先輩漁師さんもまわりにたくさんいるので、現場で相談したりお手本にしたりしながら解決ができるのかかもしれません。同じ経験をしてきた人がまわりにいるのは心強いと思います。

長谷川：うーん。親方から「大変だ！」とか「困った！」とか本当に聞かないんですね。漁協の青年部に入ったり、「元研修生が組合に相談しにくることもあります。親方から「大変だ！」とか「困った！」とか本当に聞かないんですね。漁協の青年部に入ったり、「元研修生の先輩漁師さんもまわりにたくさんいるので、現場で相談したりお手本にしたりしながら解決ができるのかかもしれません。同じ経験をしてきた人がまわりにいるのは心強いと思います。

宮田：研修生はやっぱり全く漁業のことを知らずに来るわけですから、最初はそりや大変だと思つんですが、どう、養殖コンブの作業の傍ら、磯漁でウニやナマコを自分で獲れるようになって自分の収入を得られるようになると、その面白さが大変さを上回つていくんじゃないでしょうか。そういう大変さや苦労と、面白さややり

権が得られるように少しでもハードルを下げる感じですね。

一指導する側も研修する側も大変なことが多いと思うますが、現場からどんな声が？

長谷川：うーん。親方から「大変だ！」とか「困った！」とか本当に聞かないんですね。漁協の青年部に入ったり、「元研修生が組合に相談しにくることもあります。親方から「大変だ！」とか「困った！」とか本当に聞かないんですね。漁協の青年部に入ったり、「元研修生の先輩漁師さんもまわりにたくさんいるので、現場で相談したりお手本にしたりしながら解決ができるのかかもしれません。同じ経験をしてきた人がまわりにいるのは心強いと思います。

利尻のコンブは味が上品で香り高い出汁がどれため高級品として割烹や料亭でも使われています。



初山別村の 担い手育成 プログラム

親方② 祭藏親方 《指導項目》
・サケ定置網漁
9月～翌3月 担当

定置網漁はみんなで力を合わせて行う漁。コミュニケーションや気遣いが大切!

親方① 土門親方 《指導項目》
・タコ箱漁
・ナマコけた網漁
・ヒラメへら曳き漁
5月～9月 担当

サケ定置網漁 9月～10月
沖に仕掛けた網の魚を網ごと引き上げて獲る漁法。大漁の日は港と沖を2往復することも。船上で網を引き上げる作業や選別などチームワークが重要です。メインはサケですが、季節によってニシン、フグ、ヒラメなど様々な魚を獲ります。

選別作業 港に到着するとすぐにサケの選別。サケの雌雄の判別は難しく、限られた人にしかできません。

網の修繕に使われる「ぱり」

しきけ・網作り、修繕 冬期・時化・漁後
網作りのスペシャリストである祭藏親方と常蔵親方に基礎から学びます。地形や魚種に合わせた網をいちからつくれることは漁師にとって大きな武器。自分で作った網に魚がかかると喜びもひとしおです。

親方③ 常蔵親方 《指導項目》
・タコ箱漁
・ヒラメへら曳き漁
9月～翌3月 担当

ヒラメへら曳(び)き漁 5月～10月
「へら」と呼ばれる赤い潜行板から伸ばした複数の糸の先にしきけが付いています。船を走らせるとそのしきけが回転し、それを弱った魚と勘違いさせてヒラメをくいつかせる漁法。

しきけ作り へら曳き漁で使われる「へら」や「くるくる」は漁師それぞれが工夫を凝らして作っています。

しきけを考えるのは俺の得意分野。よく魚が獲れるしきけの作り方も教えてやよう!

獲れたヒラメは船上の水槽へ

生きたまま水揚げされるヒラメ は漁協の水槽に蓄養し、定期的に活魚業者に出荷されます。

《3年後》漁業権取得し独立

4月 3月 2月 1月 12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月

親方② 祭藏親方 (3月～9月)

親方③ 常蔵親方 (3月～9月)

親方① 土門親方 (5月～9月)

漁業研修START!
3年後の漁業権取得を目指し、3人の親方から学びます

初山別村で1年を通して漁ができる、初期投資や経費があまりからないタコ箱漁をメインとしながら、複数の漁業技術を3名の親方から学びます。3年後には漁業権を取得できます。

初山別村の研修体制 5つのPoint

Point1 地域ならではの漁業の継承

1人で操業可能 &
参入しやすいタコ箱漁

初山別村を代表するタコ箱漁は比較的難易度が低く、漁具もメンテナンスしやすいタコ箱のみ、と初心者にはうってつけの漁。このタコ箱漁を中心技術を習得していきます。

Point2 漁業の選択肢を広げる

複数漁業の組み合わせで
安定した収入を確保

タコ箱漁以外にもヒラメへら曳き漁やナマコけた網漁、サケ定置網漁などの操業技術を習得し、これらの複数漁業の組み合わせにより、収入の安定をはかります。

Point3 効率の良い研修

禁漁期間や時化のときも
時間を有効に活用

禁漁期間や冬場の時化が多い時期などのタイミングに合わせて資格を取得してもらったり、陸での技術研修をカリキュラムに組み込んでいます。

Point4 地域ぐるみの研修体制

複数の漁業技術を
早期に習得

より多くの漁法を学んでもらうため、国の長期研修事業と道の事業を組み合わせ、3名の親方が協力し指導。複数の漁業技術を早期に習得させるため、地域ぐるみで研修を行います。

Point5 就業の定着に向けた環境

独立後も
5年間の所得を保証

年間の最低収入を350万円と仮定し、これを所得（水揚げから経費を差し引いた分）が下回った場合、不足分の6割を村役場が補助。研修中の3年間と合わせ計8年間の収入を保証します。

研修生第一号が
齊藤さんで助かったよ!

初山別村役場 経済課
水産商工係
岩田 誠一さん



漁業就業 支援フェアで 担い手を確保

初山別村の研修生第一号は、もともと地域おこし協力隊で村に暮らしていた齊藤さんでしたが、今後は漁業就業支援フェアに積極的に参加し、村や漁業の良いところを紹介しながら研修生を獲得していきます。

東京にいた頃より
心身共に
健康になりました!
毎日が本当に楽しい!





初山別村

村で初めての漁業研修生が誕生!

親方と研修生の Real Voice

都会から来た彼らには
余計に一生懸命
教えてあげたいと思うよ。

漁師の仕事を
好きになつてもらうこと。
それが一番の近道。



—現在研修真っ只中ですが、どうですか？

齊藤…春からタラ「箱漁」や釣り漁などを研修して、今は3人目の祭藏親方のところで、定置網の大型船に乗って10人くらいの団体で仕事をするという新しいことを経験していますが、親方や先輩漁師さんたちについて行くのに必ずあります。午前中は船のつてサケを獲りにいく定置網漁、午後は親方の小屋で網を直したり、力「をつくつたり。漁に出されるときはへら曳き漁でヒラメを獲りに行ったりすることもあります。研修当初は早起きに慣れるともので大変だったし、潮の流れなど海のことは親方に何度もわからないし、ものを壊したりすることも多くて…。でも今は少しずつ全体の流れが見えてきて、自分がどこにいるべきか、次に何をするべきかがわかつてきて、親方に「そこ邪

東京でサラリーマンを
やつていたころより
100倍楽しいです！

第1期研修生 齊藤 浩之さん(31)



魔!」って注意されることがなくなつてきました(笑)。毎日使うローブワークも何種類か覚えましたし、研修に入る前に免許を取った操船もだいぶ慣れて来ました。ヒラメやタコ漁のときは主に操船を担当させてもらっています。

岩田常蔵親方(以下、岩田常)…9月からは沖に出られないことが多いなって、網をなおしたり作ったりする陸での仕事が増えるんだけど、定置網漁ではそれが一番大事。網が作れれば何でも獲れるようになるからね。俺らは、昔から自前で網をつくつて来たり、網製造の会社からの仕事も受けてるから大概のことは教えてあげられると思つ。

—親方からみて齊藤さんはどんな研修生ですか?

岩田祭藏親方(以下、岩田祭)…土門親方と常蔵親方のところでの研修を経て、9月からうちの定置網の船で網おこし(漁場に仕掛けた「身網」)に入った魚を網ごとクレーンと人力を使って船内に取り込むことをやってもらってるんだけど、齊藤君は力があるから2人分も3人分もやるよーまず動くな。良い漁師になれると思うよ。田舎に呼んで教えることいろいろな意見はあるだろうけど、あと10年もしたら漁師さんは誰もいなくなるし、誰かがやらなければならぬ。俺は千葉の都会からこの村まで來た彼みたいな人は、余計に一生懸命教えてあげたいと思うよ。

岩田常…齊藤君は覚えるのが早いし、一生懸命だよ。彼みたいな若い人が、その後に入つてくる人たちともうまくやつてくれればいいな。俺らはもう年だからさ。

—齊藤さんにとって、親方たちはどんな方たちですか?

齊藤…親方はみんなとても温厚で、声を荒げることもないんです。常さん(常蔵親方)は仕事も趣味も釣りというくらい魚を獲ることが好きで、いつもしかけに工夫を凝ら

しているのですぐ勉強になりますし、近所・遠方問わずいろんな人が常さんを訪ねて来るので、そのおかげで僕も漁師さんの知り合いが増えて、羽幌や遠別といった村外の漁師さんとも知り合いになれました。祭藏さんのところには外国人実習生がいるのですが、口を揃えて「祭藏さんは優しい!」と言っています。外国人実習生たちは僕の先輩漁師でもあるので、彼らからもいろんなことを教わっていますよ。

—親方に恵まれて良かったですね！

はい！研修生になるとき、ある漁師さんに「たくさん獲つて人に教わった方がいい」ということを言われたのですが、本当にその通りで、親方たちで良かったなど実感しています。親方3人からそれぞれのやり方を学べる環境はすごく面白いし、貴重なこと。大まかなやり方は一緒でも、タコ箱の上げ方とか離し方とか、細かな漁法や網の作り方など親方によつて違うからこそ、いろいろな発見があります。

—親方が指導で気を付けてることは何ですか？

岩田常…一番は絶対無理をさせないことだね。自分自身、大病してから絶対にケガしないように気を付けてるし、無理はしないしさせない。あとは何でも楽しんでやるっていうこと。指導する側も学ぶ側もね。もちろん必要なときは叱るけど、どつちかっていうと俺は怒らないで育てるタチになればいいんではないかと思ってるから。漁師になることに大事なことは、とにかくこの仕事を好きになること！どんな仕事でもきっと同じだよね。それが仕事を覚える





村で初となる担い手育成の仕組みを作りあげた岩田さんと
村の漁業を長年見つめてきた佐藤さんにお話を聞きました。

—初山別村では初となるこの取り組み。地域おこし協力

隊員として村にきていた齊藤さんがきっかけだったとか。

岩田誠（以下、岩田）…そうなんです。組合員は現在30人でほとんどが60歳前後。高齢化が深刻で、あと20年後には漁師さんは数名しかいなくなってしまうかもしれません

ないという、まさに待ったなしの状態なのですが、これまで担い手育成に関する検討会を開いても、具体的な動きにまでは至らなかつたんです。そこに「漁師になりたい」という齊藤さんが現れ、このチャンスを逃してはならないと本格的に担い手育成の制度づくりに動き出しました。そのころ自分はといえばこの部署に異動してきましたばかり。何から始めて良いか分からず、まずは札幌で北海道水産会や道庁の水産林務部に相談しました。そこで道の事業として予算をつけてもらえることや各種助成制度、さまざまナビントを教えて頂き制度を作りあげていきました。そして村議会の承認を得て、2020年7月に育成研修を実行・支援するための「初山別村漁業就業支援協議会」を発足。正直、この制度が齊藤さんの地域おこし協力隊任期満了に間に合わなければ、個人的に受け入れてくれるそうな漁師さんに頭をさげようと思つていたんですが…まずはどうにか間に合いましたね！

**独立後も軌道に乗るまで
村をあげて応援していきます**

岩田…自分の父や叔父が漁師なので、いくらべテラン漁師でもひとつの縛（かまど）で二人が食べていくのは簡単ではないことは知っていました。なので指導する側も研修する側も負担にならないような研修制度を心掛けました。この取り組みを構成するにあたって、50歳以上の漁師さん全員にアンケートをとったのですが、研修生を受け入れてもいいという親方が5人もいることが分かり、来年度以降も継続的に研修生を受け入れていける目処が付きました。また、数年先の状況把握とともに、漁師さんが引退するタイミングで、新たな担い手に船や資材をスライドできるかどうかを明確にするため、あと何年漁師を続けたいのか、聞き取りも行いましたよ。

—では初山別村の育成制度のポイントを教えて下さい。

研修計画は3年間で、地域の状況にあわせて効率良く且つ独立後の収入安定と、漁師としての可能性を広げてもらうことを考えて作成しています。タコ漁をメインとしたながらも、複数の漁法をそれぞれの指導担当の親方3名から学んでもらうのですが、タコの禁漁期間は無線免許を取得してもらうとか、冬の時化（しけ）が多い時期は網作りの得意な親方について学んでもらう

600万円くらいするし、その他道具などにもお金がかかります。せめてその半額ぐらいは補助できないと漁師になつてもらえないといつて説得して、最初の1年間で一人あたり300万円程助成してもらえるような制度で承認してもらいました。

—取り組みを計画したり実施するにあたつて何か準備をしたり心掛けたことはありますか？

岩田…自分の父や叔父が漁師なので、いくらべテラン漁師でもひとつの縛（かまど）で二人が食べしていくのは簡単ではないことは知っていました。なので指導する側も研修する側も負担にならないような研修制度を心掛けました。この取り組みを構成するにあたつて、50歳以上の漁師さん全員にアンケートをとったのですが、研修生を受け入れてもいいという親方が5人もいることが分かり、来年度以降も継続的に研修生を受け入れていける目処が付きました。また、数年先の状況把握とともに、漁師さんが引退するタイミングで、新たな担い手に船や資材をスライドできるかどうかを明確にするため、あと何年漁師を続けたいのか、聞き取りも行いましたよ。

など、今もいろいろと模索中です。収入面では住宅代や公共料金、税金の半額を村で助成。さらに独立すると300万円程の奨励金が支払われます。3年間の研修期間終了後も村の制度で独立後5年間は所得を保証し、軌道に乗るまで村をあげて応援していきます。最初はうまくいかなくとも、あきらめずにがんばって欲しいとの思いからです。

—これからの初山別村の動きは？

岩田…地域おこし協力隊から漁師を目指すようになつた齊藤さんのようなケースは希です。これからは親方候補がいることも分かりましたし、漁業就業支援「フェア（以下、フェア）」に積極的に参加して道内はもちろん、道外の方もどんどん受け入れて、漁師の数を増やしていくみたいです。小さな村だからこそ、親方以外の他の先輩漁師さんや地域の人みんなで研修生を育てながら、彼らが独立したときに親方以外にも力になつてくれる人に、漁師さんが引退するタイミングで、新たな担い手に船や資材をスライドできるかを明確にするため、あと何年漁師を続けたいのか、聞き取りも行いましたよ。

—他の市町村でこの取り組みをする場合、何か伝えるとするならば？

佐藤…村に呼び込むためのいろんな入り口を用意して、来てくれた人たちの中から漁業に興味を持つてもらうことと考えて、地域外から人が来やすい環境や雰囲気にしていくことはとても大事だと思います。過去に、せつからく初山別に来てくれたのに地域になじめないまま、村を去つてしまつたということがあつて、もつたないことをしたなつて。あとはやっぱり昔みたいに「見て覚える」のスバルでなく、「自分の跡継ぎを育てる」という意識で親方や先輩漁師さん達が接してくれたら、定着してくれるのではないかなど思います。そうした指導や研修を受けられる環境と安定した収入があるてはじめて若い人達もチャレンジしてみようと思えるのではないかでしょうか。

岩田…うちの母が「以前は近所の人とも老後の話くらいいしか話題がなかつたけど、今は齊藤さんや実習生たちのおかげで楽しい話題が増えた」って言つています。まだスタートしたばかりですが、これからも地域の人の協力を得て、前向きに取り組んでいきたいですね。

佐藤…漁協としては今後も組合や権利の規定、漁業法などしっかりレクチャーしていくながら、繁忙期にはフェアに参加できない親方の代わりに、担い手確保にも注力していくと思います。現在、北るもい漁協（※）として初の自前の加工施設が建設中です。これによつて、これからは北るもい漁協管轄のタコを全て地元

だつたことはありますか？

佐藤…歓迎している人たちと、様子を見ているという人たちと両方いると思います。正直「自分の代まで獲れればいい」と思つている人もいますが、村の人口減少への危機感はみんな持つているんです。初山別村には「豊岬漁港」と「初浦漁港」の2つの港があり、初山別村の漁師さん達はそのどちらかに属しています。なので協力隊員時代から豊岬地区に住んでいる齊藤さんと面識がある漁師さんは、みんな齊藤さんを応援してますよ。何とかものになつてくれて（笑）

岩田…そうですね。そういう意味で研修生第一号が齊藤さんで良かったと思います。大変だったことは、実際に村としてどんな支援をするのか、それにかかる費用やその根拠などを村に予算として提案するための「書類作業」が自分にとって難敵でしたね（笑）。初山別村では今まで新規漁業就業者には50万円の補助金しかでなかつたんですが、実際は中古の船でも5000

北るもい漁協初山別支所長
佐藤弘欣さん

地域外から人が来やすい
環境や雰囲気にしていくことは
とても大事だと思いました。



※北るもい漁協は、平成16年、当時の天塩漁協・初山別漁協・羽幌漁協・苦前漁協の4つが合併して設立されました。

（※）として初の自前の加工施設が建設中です。これによつて、これからは北るもい漁協管轄のタコを全て地元

各市町村の就業支援制度

漁業への就業を後押しするため、道内の各市町村で独自の支援制度を設けています。支援内容の詳細はWEB^(※)で確認できますので、是非ご覧下さい！

※WEBサイト「北海道の人、暮らし、仕事 くらしごと」内「海スタイル」ページ



《オホーツク海海域》
・ホタテ・サケ・カラフトマス
・スケトウダラ・キンキ・毛ガニ



凡例・概要

- 漁業研修に関する助成**
技術を修得するための研修費用など
- 資格取得に関する助成**
船舶の操縦などの資格の取得費用
- 住居に関する助成**
毎月の支払い家賃など
- 準備金等に関する助成**
漁業を始める際に必要な資金の給付など
- 経営安定に関する助成**
独立における支援金給付など



《日本海南部海域》
・ホッケ・スルメイカ・アワビ
・マグロ・ナマコ・ウニ

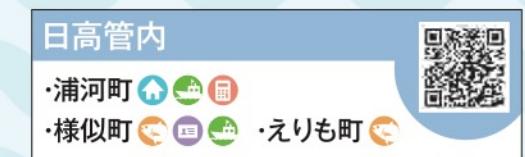


《えりも以西太平洋海域》
・ホタテ・マツカワ・ブリ
・シシャモ・ツブ・コンブ



《えりも以東太平洋海域》

・サンマ・イワシ・タラ
・ハナサキガニ・ホッカイシマエビ・コンブ



北海道で漁業をやりたい！
でもどうしたら良いの？
・そんな方のために
就業までのプロセスや
相談窓口をご紹介！

詳しくは
裏表紙を
Check!